

## 1 心境の変化

当初は、記念式典をすることや顕彰施設ができることに対してあまり実感がなかったが、国内外からの大勢の来賓や想像をはるかに越える式典・施設、講演により先輩杉原千畝氏の偉大さを知ったことで、考え方や心境の変化があった。

(生徒感想)

- ・「センポ スギハラ メモリアル」をつくることにはあまり良いイメージはありませんでした。しかし、今回の式典に愛知県知事やテレビ局、新聞社、さらにはリトアニアの生徒さん達が来てくれたという規模の大きさに、改めて千畝さんの偉大さを思い知り、自分が恥ずかしくなりました。
- ・最初は式典に3時間も？とと思っていましたが、外交大使館の人の話や千畝さんの遺族の話を聞いているとそんなことどうでもよくなるくらい心を動かされました。

## 2 貴重な体験、そして、そこから得たもの

先輩杉原千畝氏の親族、イスラエル大使、愛知県知事、名古屋市長、リトアニアの学生など国内外多方面からの参加者が集う格式高い式典、講演会等に参加できたことで貴重な経験ができた。

(生徒感想)

- ・驚いたのが、リトアニアやイスラエルの大使や杉原千畝先輩の四男の方やお孫さんにお越しいただき、大使の方々はとても心にくるスピーチを、杉原家のご遺族には本来語られることのない大変貴重な話をしていただきとても感動しました。
- ・杉原千畝の親族の視点や、サバイバーの方々の視点からお話を聞く事ができ、貴重な体験でした。
- ・今回の記念講演においての4人の記念講演会を聴いて私が感じたことは1人を救うことによって多くの人が救われていくということでした。過去杉原千畝が成したように、それらに立ち向かえるように私はこれから生きていきたいと思います。
- ・記念式典で外国人が教えてくれたことがすごく心に残っている。自分も自分のふところに鳥が迷い込んだらやさしく包み込んであげたい。
- ・今回の式典を終え、自らの信じる道を進むのはとても難しいことではあるが、とても大切なことだと感じた。もちろん、杉原さんのように自分の信じた道が必ずしも正しいというわけではなく、この選択をしないと絶対に自分は後悔すると感じたとき、しっかり自分の意志を伝えられるようになりたいと思った。

## 3 瑞陵高生としての誇り

世界的な有名人である先輩杉原千畝氏が卒業した瑞陵高校の生徒として誇りに思うとともに、先輩に負けたくないような人物になりたい、先輩に恥ずかしくない生活をしていきたいとの思いが芽生えた。

(生徒感想)

- ・去年、今年と杉原千畝について沢山学んできましたが、後輩であることに大変誇りをもつと同時に、生き方や勇気ある行動に心から尊敬します。
- ・少しでも千畝先輩に近づけるように頑張りたいと思います。
- ・改めて瑞陵高校に入ってよかったと思いました。自分の学校を誇りに思える式典だった。
- ・こんなすごい学校の生徒であることを忘れずに生活していきたい。